

令和7年度 東住吉中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

平均正答率は国語-2.3ポイント全国平均を下回っているが、数学は+2.7ポイントと全国平均を上回っている。

平均無回答率は国語+1.0ポイント、数学+2.3ポイントと全国平均を上回っており、平均正答率以上に大きな差となっており課題である。

【国語】知識及び技能に関する問題の正答率は全国平均を上回っており、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は+1.0ポイントとなっている。思考力、判断力、表現力等に関する問題の正答率は「話すこと・聞くこと」は全国平均を0.6ポイント上回ったが「書くこと」は-2.5ポイント「読むこと」においては-5.8ポイントとなっている。

【数学】正答率は「数と式」「図形」ではそれぞれ+6.6ポイント、+4.8ポイントと大きく上回っている。しかし、「関数」「データの活用」の領域ではそれぞれ全国平均を-0.3ポイント、-1.1ポイントとわずかながら下回っている。

【理科】全国と比較してIRTバンド5の割合が2.5ポイント上回っている。

【生徒質問紙】では、「学校に行くのは楽しいと思いますか(+3.5)」「将来の夢や目標を持ってていますか(+1.1)」「国語の授業の内容はよく分かれますか(+10.7)」「数学の授業の内容はよく分かれますか(+11.9)」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較すると上回っている。

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか(-1.3)」「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか(-1.1)」「自分には、よいところがあると思いますか(-4.2)」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較すると下回っている。

【今後に向けて】

生徒の「学び合い」を実現し、多くの教科において協働学習を取り入れるよう、継続して取り組む。

デジタル教科書やドリル等のICT機器を活用した教育活動を推進し、生徒の興味・関心と学力の向上につなげる取組を実践する。

幅広い分野の本に触れ、多様な知識や価値観に出会うことで、基礎的・基本的な学力が定着できるよう、読書習慣を身に付けさせる取組を充実させる。

習熟度別少人数授業の実施や学校元気アップ推進事業を活用した放課後学習・長期休業中の学習会など、生徒が自主的に学ぶ機会を多く設け、学習環境を充実させる。

校内研修を持続発展させ、授業力の向上を図り、教科指導の研究を進めることによって、生徒の学力向上に結び付ける。

英語の授業において、ペアワーク・リーディング・ICT機器を活用し、「聞く」及び「話す」能力の向上を図る。セクション毎のQ&A及び3~4文の英作文の実施により、「書く」能力の底上げを図る。

種目の特性に応じたトレーニングを行い、ペア学習、グループ学習で、課題に応じた取組ができるよう、ワークシートを利用して、取組の振り返りを行う。